

2011 年度 第 1 回水工学委員会幹事会 議事録

日時： 2011 年 7 月 19 日（火） 10:00～13:30

場所： 土木学会 E 会議室

出席者： 寶馨（委員長）、道奥康治（副委員長）、篠田成郎（幹事長）、大石哲（編集幹事長）、泉典洋、富永晃宏、浅沼順、天野邦彦、石平博、今村正裕、門田章宏、神田学、角哲也、関根正人、田中規夫、田中昌宏、知花武佳、戸田祐嗣、中津川誠、二瓶泰雄、藤田一郎、矢島啓[敬称略]

議題：

寶委員長から委員長就任挨拶があり、引き続き、各委員からの自己紹介が行われ、以下の事項について審議が行われた。

《報告事項》

1. 水工学委員会構成（篠田成郎 幹事長）

幹事長から、資料に基づき水工学委員会組織図および委員構成について説明があった。水理・水文解析ソフトウェアの共通基盤構築に関する小委員会は、昨年度で目的を達成し終了して発展解消し、産官学からなるコンソーシアムを結成して、小委員会の業務を引き継いだことが報告された。

2. 水工学に関する夏期研修会（2011・広島大学）について（矢島啓 委員）

矢島委員より、資料に基づき説明があった。昨年度アンケート結果から、内容については満足度が高いこと、開催時期、A, B コースの編成を考慮、料金についての見直し、講演集・発表スライドの PDF での配布、などの要望があったことが紹介された。また、委員からは配布資料をカラーにしてほしい、などの要望が出された。

3. 全国大会研究討論会について（篠田成郎 幹事長）

幹事長より、資料に基づき、CommonMP 開発プロジェクトの運営に当たる産官学のコンソーシアムらの報告を主に、討論会を企画しており、水工学委員会で、提案する予定である旨、紹介があった。

4. 水シンポジウム（京都）について（篠田成郎 幹事長）

幹事長より、配付資料・ポスターを用いて、説明があった。

5. 各部会、小委員会の活動報告及び活動計画

a) 水文部会（神田学 部会長）

神田部会長より、資料に基づき、昨年度の活動報告、今年度の活動計画が紹介され、また富山において 10 月に開かれる水文研究集会の参加者募集中について、紹介があった。

b) 基礎水理部会（富永晃宏 部会長）

富永部会長より、資料に基づき、昨年度の活動（フリーソフト説明会、基礎水理シンポジウム、部会の開催）、今年度の活動予定（水シンポで第 1 分科会を担当、第 5 回基礎水理シンポ、部会見学会）が紹介された。水シンポでのテーマ別分科会については、学会内での予算申請が必要であることが、紹介された。

c) 環境水理部会 (二瓶泰雄 部会長)

二瓶部会長より、資料に基づき、昨年度の活動(研究集会@草津、水シンポ@福岡)、今年度の活動予定(研究集会@鳥取)が紹介された。研究集会は、部会員以外でも参加歓迎であることが紹介された。

d) 河川部会 (泉典洋 部会長)

泉部会長より、資料に基づき、2010年度河川技術シンポで OS (organized session), OPS (organized poster session)を開催、報告をとりまとめ HP にて公開したこと、シンポ運営内規、河川部会内規を制定し、学会ホームページに公開した旨、報告された。また、2011年度河川技術シンポは、震災の上、1ヶ月延期の上、今週開催の予定であること、またそのセッション内容について説明があった。また河川技術論文集第17巻の発行について、案内があった。

e) 地球環境水理学小委員会 (篠田成郎 幹事長)

幹事長より、昨年度の東大における第23回アゲールシンポについて、報告があった。小委員会の運営委員会については、2005年3月に道奥副委員長のまとめがあり、地球環境委員会に対応した活動であるが、その活動が見えにくいなどの問題点が指摘された。小委員会の存続については、前年度からの協議事項となっていること、環境水理委員会と棲み分けが必要などの意見が述べられた。幹事長より、海岸工学委員会の地球環境関連小委員会とのWSの共催の予定は無いことが報告され、委員長より、活動実態を調査し、来週の委員会で存続について議論する旨、提案された。

f) 東南アジア河川流域研究小委員会 (寶馨 委員長)

活動実態が無いなどの意見が述べられ、委員長より、委員会内で活動実態はあるので、次週の委員会で議論する旨、提案された。

g) ISO/TC113 小委員会 (篠田成郎 幹事長)

幹事長より、次週の委員会で活動報告がある予定である旨、紹介された。

h) 流量観測技術高度化研究小委員会 (寶馨 前委員長)

必要性について、議論が必要との意見が出された。委員長より、水文・水理のよい接点であり、次週の委員会で他の2小委員会とともにその存続について、議論を呼びかけたいとの意見が述べられた。

i) 水理・水文解析ソフトウェアの共通基盤構築に関する小委員会 (篠田成郎 幹事長)

幹事長より、H22年3月に発足したCommonMPコンソーシアムに小委員会の機能が移行した旨、報告された。来週の委員会で説明/審議の予定であるとの紹介があった。

j) JHHE 編集小委員会 (川池健司 幹事)

川池幹事より、出版状況・予定、査読状況について報告があった。国際ジャーナルが発刊されるまでは従来通りの編集作業となるとの説明があった。

e) 水工学論文賞選考小委員会 (大石哲 編集幹事長)

大石編集小委員会幹事長より、平成23年度水工学論文賞、同奨励賞候補論文について、論文賞の該当者がなく、奨励賞の候補が2から4名と成る可能性が高いことが報告された。

6. その他

a) IAHR 国際水圏環境工学会 (IAHR) の近況 (篠田成郎 幹事長)

幹事長より、資料に基づき、新役員(2011から2年間)、受賞、アジア大会、世界大会について紹介があった。

田中(昌)委員より、沿環連にも水工学委員会から人を出しているの、水工学委員会における位置づけをはっきりさせてほしいとの要請があった。

《協議事項》

1. 平成 23 年度の年間スケジュールについて（篠田成郎 幹事長）

幹事長より、説明があり、了承された。

2. 第 56 回水工学講演会の開催について（愛媛大学）（門田章宏 委員）

門田委員より、日程・会場について、資料に基づき説明があり、了承された。河川災害シンポとアゲールシンポの時間枠をずらすかどうかについて、プログラム決定までに検討することとなった。

3. 第 57 回水工学講演会の開催について（篠田成郎 幹事長）

理科大神楽坂キャンパスでの開催を第一候補として、委員長と幹事長で検討することとなった。

4. 水工学に関する夏期研修会（2012・水工学委員会担当）について（篠田成郎 幹事長）

幹事長より、北海道での開催について、提案があった。泉委員より、参加人数も少なく、開催の必要性・意義について質問があり、委員長より、開催地域のニーズを踏まえて内容を考えるべきであること、副委員長より、社会貢献・人材育成の場として学会内で位置づけられているため、次期中期計画の中で議論すべきであることが、述べられた。幹事長より、存続する方向で協議する旨、提案され、了承された。

5. 次年度水シンポジウムについて（篠田成郎 幹事長）

幹事長より、2012 年 7 月 26 日（木）～27 日（金）に、岐阜において開催する旨、提案され、了承された。前年の開催地での実行委員会に、翌年の開催地の担当者が参加することとなっているため、2013 年の開催地を 2012 年 3 月には決定する必要があることが確認された。

6. 水工学論文編集作業について（大石哲 編集幹事長）

大石編集小委員会幹事長より、編集小委員会幹事会・編集委員会の開催日程が提案され、了承された。編集小委員会の構成員の案が示された。民間・実務者の編集賞委員へ就任に当たっては、担当論文数の軽減について配慮すること、欠員の補充については、各分野の幹事と相談して、候補を挙げ、来週提案することとなった。案としては、水文（東工大木内教授）、流砂（関根委員による推薦）、沿岸（長崎大多田教授）などが挙げられた。

また、平成 22 年度決算と平成 23 年度予算案が示された。黒字は学会に納入され、その 75% が翌年度の委員会予算に加算される事が紹介され、著者負担金は現状維持とする案が採用された。キーノートレクチャーの依頼案は、第 56 回については小松利光九州大学教授と他 1 名（津波・河川災害関連など）、第 57 回は 2 名とし、次週の委員会で提案されることとなった。また、キーノートの内容の J-Stage への掲載については、学会全体の方針に沿うことにすることとなった。

7. その他

a) 土木学会 B 部門英文論文集編集について（関根正人 委員）

関根委員より、英文論文集は 2013 年からの発刊の予定であること、JHHE から、土木学会 B 部門英語論文集への移行の議論が必要であることが紹介され、水工学委員会中心で議論していくこととなった。

b) 東日本大震災特別委員会 水工特定テーマ委員会（案）について（関根正人 委員）

関根委員より、土木学会で水工特定テーマ委員会を設置する方向で検討中である旨、報告された。

c) 水工学委員会の国際対応について（寶馨 委員長）

委員長より、10月24日～28日にIHPシンポジウムが京都大学にて開催されることが紹介され、水工学委員会が共催する旨の提案があり、了承された。また、国際委員会による各委員の国際活動に関する調査依頼に対応して、とりまとめることとした。

d) 水理公式集の改訂（寶馨 委員長）

委員長より、水理公式集の改訂とその意義について、議論を始める旨提案があり、了承された。

以上